

平成 29 年度牧之原市当初予算の概要について

1 当初予算の総額

	予 算 額	(前年度比	伸び率)
一般会計(歳入歳出)	1 9 6 億 5, 0 0 0 万円	(+2 億 5, 000 万円	+ 1.3%)
特別会計(歳入歳出)	1 1 0 億 8, 3 0 2 万 8 千円	(+2 億 3, 175 万 9 千円	+ 2.1%)
合 計	3 0 7 億 3, 3 0 2 万 8 千円	(+4 億 8, 175 万 9 千円	+ 1.6%)

2 当初予算の概要

(1) 総括

【一般会計】

- ・今年度の予算は、前年度比 2 億 5, 000 万円、率にして 1.3%の増となり、4 年連続の積極型予算である。予算規模としては、過去 2 番目の大きさを 3 年連続 190 億円を超える大型予算となった。
- ・今年度は、第 2 次総合計画の最上位施策である“宝”子ども育成プロジェクトの「英語力向上サポート事業」や「ICT活用推進事業」など次世代の発展に繋がる事業に重点を置いた予算編成を行った。また、急速に人口減少が進む中、喫緊の課題である「移住・定住対策」においても予算の充実を図った。
- ・「英語力向上サポート事業」では、新学習指導要領を見据え、ALT 配置人数の増員、児童生徒に好評であるイングリッシュキャンプの充実、英語力向上の成果指標として英語能力判定テストの導入、「ICT活用推進事業」については、より分かり易い授業を実施し、学力向上を図るため、電子黒板やタブレット端末の増設費を予算化した。
- ・「移住・定住対策」の新規事業として、新婚世帯に対し家賃の一部を助成する「しあわせ新婚さん家賃助成事業」や移住希望者が生活体験等を行い実際の移住に繋げるため、空き家を活用した移住のお試し体験施設の整備費用を補助する「お試し移住体験推進事業」を計上した。
- ・道路橋りょうの整備についても予算を充実させ、市道大倉壺丁田線新設事業だけでも 10 億円を超える予算配分を行った。
- ・地震津波対策では、第 2 期計画となる津波避難タワーや津波避難地避難路整備などの都市防災事業、地頭方漁港海岸の防潮堤整備などで約 7 億円の予算を確保した。
- ・そのほか、東名高速道路相良牧之原インターチェンジ北側区域の開発事業や M I J B C (Made in Japan by China) 構想事業、妊産婦通院等支援、地域の医師不足対策として開業医への助成など昨年度に引き続き予算措置をした。
- ・財政調整基金繰入金 9 億 5, 000 万円や臨時財政対策債 6 億円を計上し財源調整を行った。

【特別会計】

- ・国民健康保険特別会計は、被保険者及び保険給付額の見込等に基づく予算である。
- ・後期高齢者医療特別会計は、保険料の賦課見込みなどに基づく予算である。
- ・介護保険特別会計は、平成 27 年度からの 3 ヶ年計画に基づく予算を計上している。
- ・土地取得特別会計は、用地取得の予定がないため、基金管理のみの予算である。
- ・農業集落排水事業特別会計は、維持管理に係る経費で前年度と同額になっている。

(2) 歳入（一般会計）

- ・市税は、前年度比1億761万円、率にして1.4%の増の75億9,685万円を見込んだ。市内企業の設備投資が進んだことにより、固定資産税(主に償却資産)を前年度比1億8,784万円の増となる42億6,190万円を計上した。
- ・地方交付税のうち普通交付税は、市税の増収を反映させ、前年度比5,000万円減の17億5,000万円とした。
- ・国庫支出金は、市道大倉壺丁田線新設工事などの社会資本整備総合交付金事業の増加により、25億8,388万円とし、前年度比8,141万円、3.3%の増となった。
- ・県支出金は、光ファイバ網や介護施設の整備の完了などから前年度比3億5,962万円の減で13億9,066万円となった。
- ・寄附金は、ふるさと納税を前年度比1億円の増の4億円を計上した。
- ・市債は、地域振興基金積立事業や道路事業などに充てる普通債が14億6,850万円、一般財源である臨時財政対策債が6億円で、合計額は、前年度比2億7,670万円増の20億6,850万円を計上したが、市債残高は、平成29年度末においても200億円未満を維持することができ、実質公債費比率も低下を続ける見込みである。

(3) 歳出（一般会計）

平成29年度に実施する事業を総合計画における6つの政策により整理した主要な事業は、以下のとおりである。(別冊、予算参考資料の「平成29年度 主要事業等」参照)

◎印は、第2次総合計画における重点プロジェクトを示す。

1【健康福祉】支え合い、生き生きと暮らせる地域と人づくり

子どもの学習支援事業〈新規〉 生活困窮家庭の子どもに対し、貧困の連鎖を防ぐための支援を行う。	147万円
◎ 放課後児童クラブ運営事業 平成28年度に改修・新築した放課後児童クラブを中心に利用定員の見直しを図り、子育て世帯の仕事と子育ての両立を支援する。	6,689万円
◎ ファミリー・サポート・センター運営事業 地域において、育児の援助を受けたい人と行いたい人を仲介し、地域で子育てを行う環境づくりを支援する。	338万円
◎ 子育て支援連携システム（まきはぐ）運用事業 子育て中の家庭が必要とする様々な情報を発信するとともに、電子データ化された子どもの健康情報から効率的な子育て支援を行う。	427万円
◎ こども医療費助成事業 子ども医療費（保険診療分）の全額助成により、子育ての経済的負担を軽減し、出産や子育てに対する不安を軽減するとともに、子どもの早期受診を実現させ、子どもの健全な育成を図る。	1億8,961万円
◎ 病後児保育事業〈新規〉 病気の回復期にある子どもを専用の保育室で専門スタッフが一時預かりを行うことにより、保護者の子育てと就労の両立を支援する。	421万円

地域医療振興事業 牧之原市内に診療所等を開設する医師に対し、開設にかかる費用の一部を助成することで、医療サービスの充実を図る。	5,000万円
◎新生児聴覚スクリーニング事業〈新規〉 新生児の聴覚スクリーニング検査費用の助成により、聴覚障害の早期発見、治療、療育に繋げる。	121万円
◎妊婦出産包括支援事業〈新規〉 妊娠期から子育て期の切れ目ない支援をきめ細やかに実施するため、専従職員を配置し相談支援体制を強化する。	229万円
◎妊産婦通院等支援事業 榛原総合病院の産科休診に伴う対応として、妊産婦の通院等に要する費用の一部を助成することにより、妊産婦の経済的、精神的負担の軽減を図る。	1,050万円
◎健康マイレージ事業〈新規〉 健康づくり活動にポイントを付け、実践や社会参加することにより、ポイントを獲得できる仕組みを構築する。企業や商店と連携し、健康ポイント制による特典を付与することで、健康無関心層への健康づくりを推進する。	14万円
グラウンド芝生化整備事業〈新規〉 幼児から高齢者の幅広い年齢層のスポーツ及び身体活動推進等のため、社会体育施設のグラウンド芝生化の整備内容について検討する。	50万円

2【教育文化】地域全体で学び、育てる教育の場づくり

スクールバス運営事業〈新規〉 片浜小学校の統合に伴い、児童の通学手段を確保するため、スクールバスの運営を図る。	488万円
◎英語力向上サポート事業 外国人英語指導助手を配置し、語学力の向上により国際理解教育の推進、また、イングリッシュキャンプを実施し、子ども達の学習意欲の向上を図る。	2,311万円
◎理科支援員配置事業 郷土出身の鈴木梅太郎博士や山崎貞一氏のように、子ども達が理科・科学分野への関心を高めるため、理科授業を一層充実させるとともに、実験等の環境を整えることで授業を改善し、学力の向上を図る。	169万円
◎ICT活用推進事業 電子黒板やタブレットを活用した授業を取り入れ、児童生徒の興味関心を高め、学力の向上を図る。	2,147万円

学校施設トイレ洋式化事業 学校の和式トイレを改修して全体の75%の洋式化をする。平成29年度に相良小学校を改修し、全校完了となる。	787万円
相良中学校サブグラウンド改修事業 県の萩間川改修事業がグラウンド用地に影響することから、グラウンド機能を確保するための改修を実施する。	5,793万円

3【産業経済】活力と賑わい、人を呼び込む産業づくり

茶業振興事業 市全体の茶の産業振興のため、茶関係団体の育成支援、静岡牧之原茶のブランド力強化を図るとともに、茶業経営の効率化を図るため中間管理機構を活用した茶園集積や乗用型機械の導入支援を実施する。	1,359万円
農業基盤整備促進事業 道路に接続していない小区画で不正形な農地を大型機械による農作業の省力化や農地集積を図るための基盤整備を行う。	4,300万円
ふるさと納税推進事業 1万円以上のふるさと納税をした方に、地元特産品等を記念品として贈り、市内産業の振興を図る。(寄附金4億円を見込む。)	2億1,962万円
御前崎港旅客船誘致事業〈新規〉 御前崎港の新たな利活用方法として、客船誘致を推進する。	300万円
◎新拠点開発推進事業 東名高速道路相良牧之原インターチェンジ北側区域の開発を図るため、土地区画整理事業の実施に向けた計画策定等を行う。	3,814万円
◎MIJBC (Made in Japan by China) 構想事業 中国からの対日投資を呼び込むため、経営者研修の受入、文化交流などを積極的に実施する。また、プラットホームの設置及びセンターの設置に向けて5市2町の連携で事業を実施する。	1,000万円
東京五輪事前合宿地等誘致事業 サーフィン競技等のアメリカ合衆国及び中華人民共和国とのホストタウン登録を目指す。	393万円
◎ビーチスポーツ等を活かした観光まちづくり事業 市内海岸線15kmについて、サーフィンをはじめとしたビーチスポーツを活用しながら、若者の誘客や沿岸地域の再生を推進する。	333万円

4 【生活基盤】快適で人が行き交う豊かな生活空間づくり

<p>◎新婚さん住む住む助成事業〈拡充・新規〉</p> <p>住居費の初期費用等を助成する「結婚新生活支援事業」や家賃の一部を助成する「しあわせ新婚さん家賃助成事業」により、若者の婚姻率の増加や市内への定住を促進する。</p>	960万円
<p>◎移住・定住促進事業</p> <p>空き家のリフォーム費用及び残置物除去費用や、子育て家族の住宅取得を支援し、移住定住の促進を図る。</p>	3,205万円
<p>◎お試し移住体験推進事業〈新規〉</p> <p>移住希望者が生活体験等を行い実際の移住に繋げるため、空き家を活用した移住のお試し体験施設の整備費用を補助する。</p>	896万円
<p>デマンド交通試験運行実施事業〈新規〉</p> <p>バスに乗れない交通弱者を対象にした移動手段を確保するため、デマンド交通試験運行を実施する。</p>	129万円
<p>二酸化炭素排出抑制対策事業〈新規〉</p> <p>国が進める地球温暖化対策の国民運動「COOL CHOICE（賢い選択）」の一環として、地域住民や各種団体と協働した普及啓発活動を実施する。</p>	495万円
<p>◎道路ストック補修支援事業</p> <p>道路メンテナンスに係る土木構造物の点検、橋梁補修、法面補修を行うとともに、施設の長寿命化を図る。</p>	2億1,910万円
<p>落橋防止対策事業〈新規〉</p> <p>地震発生時などにおける避難のため、避難路及び緊急輸送路に架かる橋梁の落橋防止対策を実施する。</p>	3,000万円
<p>社会資本整備総合交付金事業（道路事業）</p> <p>市道大倉壱丁田線整備 L=1,545m 市道東萩間西原線改良 L=160m</p>	11億2,500万円
<p>空港隣接事業（道路整備事業）</p> <p>市道八ツ枝毛ヶ谷線改良 L=120m 市道坂口74号線改良ほか3路線</p>	2億600万円
<p>◎相良牧之原IC北側地域排水路等整備事業</p> <p>市道布引原25号排水路 L=205m</p>	3,381万円

5 【防災】安全安心な暮らしを守る自助・共助・公助の体制づくり

都市防災事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園自家発電施設整備事業（649 万円） ・ 津波避難路等整備（4 億 8,700 万円） 市道須々木大溝線改良 L=74m 津波避難地避難路工事 5 路線 ・ 津波防災まちづくり事業（8,938 万円） 津波避難タワー整備工事 1 箇所、ソーラー照明灯設置工事 15 箇所 	5 億 8, 2 8 7 万円
地頭方漁港海岸防潮堤整備事業 レベル 1 の津波対策事業として防潮堤整備を行う。	1 億 5, 1 0 0 万円
プロジェクト「TOUKAI-0」総合支援事業 昭和 56 年 5 月以前に建築された木造住宅の耐震化事業及び倒壊の恐れがあるブロック塀の撤去事業を推進する。	2, 4 0 8 万円
静岡地域消防救急広域化事業 島田市、吉田町、川根本町とともに静岡市に消防救急業務を委託し、消防力の強化を図る。	6 億 6, 1 2 0 万円
同報無線デジタル化整備事業〈新規〉 平成 34 年 11 月 30 日を期限とする総務省のスプリアス規制に対応するため、同報無線のデジタル化を推進する。	2, 3 6 5 万円

6 【市政経営】実効性と柔軟性を備えた組織と仕組づくり

地域振興基金積立事業〈新規〉 合併特例債を財源に 4 年間で 16 億円の地域振興基金を積み立てる。	4 億円
◎公共施設マネジメント基本計画先導的プロジェクト推進事業 公共施設マネジメント基本計画の先導的プロジェクトである片浜小学校の利活用の推進や中心市街地にある庁舎等の公共不動産をエリア価値を高めるための施設としての検討を進める。	4 8 9 万円
総合健康福祉センター（さざんか）大規模改修事業 デイサービスセンターうたりの閉所に伴う施設の事務所化と老朽化が見られる設備の改修に向けて実施設計を行う。	1, 5 0 0 万円
◎公営住宅等ストック総合改善事業 公営住宅等長寿命化計画に基づき市営住宅のストック総合改善事業を実施する。	2 5 0 万円
◎消防団詰所建設事業〈新規〉 消防団組織再編による統合及び施設老朽化に伴う消防団の詰所建設を実施する。	4 0 0 万円